

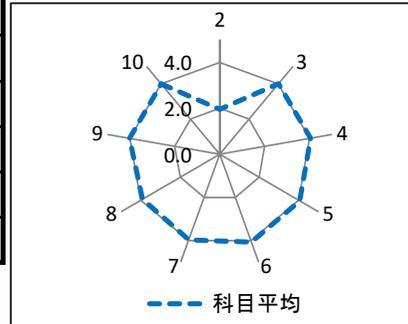
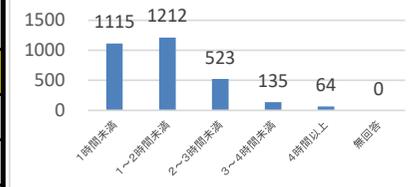
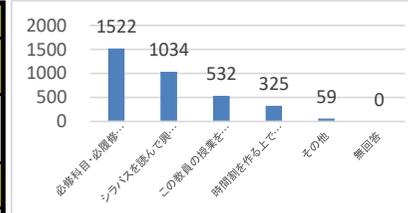
愛知文教大学 2020年度 秋期 授業調査アンケート集計結果 (全開講科目)

【全191科目】	(2020春期)	(2019秋期)
■アンケート回答者数	3049 人	3235人
のべ受講者数	4046 人	4539人
回答率	75.4%	82.6%

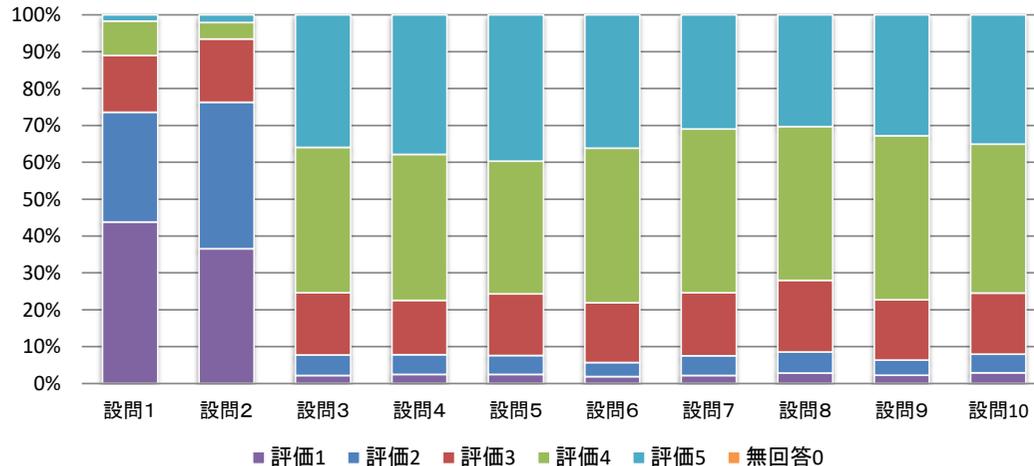
(補足)
 1. 評価平均は、評価1×1、評価2×2、評価3×3、評価4×4、評価5×5として計算し、無回答は計算対象からはずしてあります。
 2. 受講者数は、アンケート実施科目の履修登録者数を合計しています。
 3. ゼミなど回答者数が5名以下の科目についても、本集計データに含まれています。

■設問別評価集計表

アンケート設問内容	全体の平均値	評価構成(件数)					
		必修科目・必修履修科目だったから	シラバスを読んで興味を持ったから	この教員の授業を受けた上で好都合だったから	時間割を作る上で好都合だったから	その他	無回答
設問1 あなたが、この授業を履修した理由は何ですか(複数回答可能)		1522	1034	532	325	59	0
	全体の平均値	1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4時間以上	無回答
設問2 この授業に対する1回分(90分)あたりの事前事後学習(宿題を含む)は、平均してどれくらいですか？	2.0	1115	1212	523	135	64	0
	全体の平均値	評価1 そう思わない	評価2 あまりそう思わない	評価3 どちらともいえない	評価4 そう思う	評価5 大変そう思う	無回答
設問3 担当教員は、この授業の学習目的や必要性を十分に説明してくれましたか。	4.0	67	169	515	1202	1096	0
設問4 担当教員は、この授業が理解しやすいように、教え方(教材や実演など)の工夫をしていましたか。	4.0	76	162	450	1207	1154	0
設問5 担当教員は、学生からの質問やレポートなどの提出物に対して、よく対応(フィードバック)してくれましたか。	4.0	75	157	509	1099	1209	0
設問6 担当教員は、この授業をシラバスの計画にそって行いましたか。	4.0	57	117	494	1279	1102	0
設問7 あなたは、この授業を、やる気を持ってまじめに受けることができましたか。	3.9	67	162	522	1355	943	0
設問8 あなたは、この授業を受けて、その内容に興味を持ち、学修したい気持ちが増えましたか。	3.8	86	175	593	1270	925	0
設問9 あなたは、この授業を受けて、新しい知識、技術、能力を得る事ができましたか。	4.0	68	125	499	1358	999	0
設問10 あなたは、この授業に満足しましたか。	3.9	88	156	505	1231	1069	0



設問別評価構成グラフ



全開講科目中
 評価3以下の項目

設問2	76%
設問3	8%
設問4	8%
設問5	8%
設問6	6%
設問7	8%
設問8	9%
設問9	6%
設問10	8%

令和 2 (2020) 年度「秋期 授業調査アンケート」

実施方法と結果の分析と考察、総評

- ★ 全開講科目：191 科目
- ★ アンケート期間：令和 3 年 1 月 4 日（月）～1 月 1 5 日（金）の最終授業日に実施
- ★ アンケート実施方法：本年度は、School Gear を用いた Web 上での実施（匿名式）
- ★ アンケート数等：

項 目	受講者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)	未回答率(%)
令和 2 年度秋期	4, 046	3, 049	75. 4%	24. 6
令和 2 年度春期	4, 539	3, 732	82. 2%	17. 8

- ★ 設問 3 から設問 10 の回答は、「評価 1(そうは思わない)」→ 評価 2 → 「評価 3(どちらともいえない)」→ 評価 4 → 「評価 5(大変そう思う)」の昇順である。

(注) 設問 3 以降のカッコ内の数値は、令和 2 年度春期等の数値である。

1. 「設問 1 あなたが、この授業を履修した理由は何ですか（複数回答）」
 - ➡ 「必修科目・必履修科目」を履修理由としている学生は 1, 522 人、43. 83% (1, 830 人、43. 18%) である。この結果から必修科目・必履修科目を基本にした履修モデルに従って受講していることが確認できた。また、「シラバスを読んで興味を持ったから」と回答した学生は 1, 034 人、29. 78%(1, 156 人、27. 27%)、「この教員の授業を受けたかったから」と回答した学生は 532 人、15. 32% (585 人、13. 80%) である。
2. 「設問 2 この授業に対する 1 回分 (90 分) あたりの事前事後学習 (宿題を含む) は、平均してどれくらいですか？」
 - ➡ 学生が授業に臨むにあたり事前事後の学習状況は、平均 2. 0 時間であった(コロナ禍、対面及びオンラインのハイブリット授業においても春期と同じ数値であった)。

項 目	人数		%	
	秋期	春期	秋期	春期
4 時間以上	64	96	2. 10	2. 57
3 ～ 4 時間未満	135	161	4. 43	4. 31
2 ～ 3 時間未満	523	687	17. 15	18. 40
1 ～ 2 時間未満	1, 212	1, 597	39. 75	42. 79
1 時間未満	1, 115	1, 191	36. 57	31. 19

3. 「設問 3 担当教員は、この授業の学習目的や必要性を十分に説明してくれましたかし

たか。」

➡評価5、評価4の合計は2,298人、75.37% (2,887人、77.35%) と高い評価であることがわかった。しかし、評価3から評価1では751人、24.63% (845人、22.64%) である。

項目	人数		%	
	秋期	春期	秋期	春期
評価5	1,096	1,260	35.95	33.76
評価4	1,202	1,627	39.42	43.59
評価3	515	534	16.89	14.30
評価2	169	207	5.54	5.54
評価1	67	104	2.20	2.78

4. 「設問4 担当教員は、この授業が理解しやすいように、考え方（教材や実演など）の工夫をしていましたか。」

➡ 秋期の結果総評で「学生の満足度を高める工夫をさらに行う。」ことを提起（指摘）した。秋期では、評価5、評価4の合計は2,361人、77.44% (2,909人、77.94%) で、今期もほぼ同じ割合であった。評価3から評価1では688人、22.56% (832人、22.05%) であった。

5. 「設問5 担当教員は、学生からの質問やレポートなどの提出物に対して、よく対応（フィードバック）してくれましたか」

➡ 評価5、評価4の合計は2,803人、75.69% (2,308人、75.10%) で、引き続き高い数値を維持している。しかし、評価3から評価1と評価している学生が741人、24.30% (929人、24.89%) いる。

6. 「設問6 担当教員は、この授業をシラバスの計画にそって行いましたか」

➡ 昨年度春期において「学生は、シラバスを利用した学修成果が求められる。」「教員は、シラバスを活用し、理解を深める努力することが望まれる。」の2項目を提起（指摘）した。その結果昨年度秋期は78.40%、今年度の春期は77.81%、秋期は2,381人、78.10%と良い結果で推移している。この満足度の維持とシラバスに沿った授業展開にさらに期待したい。

7. 「設問7 あなたは、この授業を、やる気を持ってまじめに受けることができましたか」

➡ 評価5、評価4の合計は2,298人、75.37% (2,779人、74.46%) と高い評価であった。春期同様に学生はまじめに授業に臨んでいる。しかし、評価3から評価1では751人、

24.63% (953 人、25.53%) いる。

8. 「設問 8 あなたは、この授業を受けて、その内容に興味を持ち、学修したい気持ちが増しましたか」

➡ 評価 5、評価 4 の良い割合が 3.5% であるが増加している。さらに、評価 3 から評価 1 の合計は 854 人、28.00% (1,103 人、29.55%) で、春期よりも若干改善の兆し傾向であるが、引き続き学修意欲の改善が望まれる。

項目	人数			%		
	秋期	春期	差異	秋期	春期	差異
評価 5	925	1,038	△113	30.33	27.81	2.52
評価 4	1,270	1,591	△321	41.65	42.63	0.98
評価 3	593	718	△125	19.45	19.23	0.22
評価 2	175	265	△90	5.73	7.10	1.37
評価 1	86	120	△34	2.82	3.21	0.39

9. 「設問 9 あなたは、この授業を受けて、新しい知識、技術、能力を得る事ができましたか」

➡ 評価 5 は 999 人、32.76% (1,157 人、31.00%)、評価 4 は 1,358 人、44.54% (1,727 人、46.27%) となっており、評価 5 と評価 4 の合計は 2,357 人、77.34% (2,884 人、77.27%) で、秋期同様に良い結果となっている。なお、評価 3 の「どちらともいえない」と回答している学生が 499 人、16.37% (548 人、14.68%) で若干増加している。

10. 「設問 10 あなたは、この授業に満足しましたか」

➡ 評価 5 と評価 4 の合計は 75.43% (75.51%) 以上の良い結果となっている。また、評価 3 の「どちらともいえない」と回答した学生も 16.56% (15.67%) いる。この評価 5～評価 3 を含めると 91.99% の学生が満足している。

項目	人数			%		
	秋期	春期	差異	秋期	春期	差異
評価 5	1,069	1,207	△138	35.06	32.34	2.72
評価 4	1,231	1,574	△343	40.37	42.17	△1.80
評価 3	505	585	△80	16.56	15.67	0.89
計	2,805	3,366	△561	91.99	90.18	1.81

【分析と考察】

- ① 秋期の回答率は 75.4%で、春期の 82.2%、2019 年度秋期の 82.6%を下回った。月曜日の授業が冬季休業明けで十分な周知ができなかった可能性があった。月曜日・時限毎の回答率（回答者/履修者＝回答率）を算出したところ、月曜日の 1 限の回答率が低い結果となっていることが判明した。

1 限：155/256≒60%	2 限：192/249≒77%
3 限：219/269≒81%	4 限：226/266≒85%

曜日・時限の他には、特定の授業における回答率の低さが全体の割合に影響を及ぼしている可能性もあるので、丁寧でより効果的な周知方法を検討したい。

- ② 秋期のアンケートでは、クォーター制の授業の回答率が低かったため、今回は担当教員に個別に第 3 クォーター、第 4 クォーターともに実施する確認のメールを送った。第 3 クォーターと第 4 クォーターの授業（初級中国語）で回答率に大きな差が見られなかったため、一定の効果はあったものと考えられる。

3Q：回答者 100/履修者 198≒50%	4Q：回答者 109/履修者 194≒56%
------------------------	------------------------

一方で回答率が低いことも判明した。①と同様、丁寧により効果的な依頼・周知方法を検討したい。

- ③ 秋期は、オンラインと対面を併用する授業展開となったため混乱の生じやすい環境であったが、満足度は春期と同様の 5 点満点中 3.9 点で、コロナ禍前の 2019 年度秋期 4.1 点からのダウンは 0.2 ポイントに留められている。満足度に加え、ほぼすべてで秋期同様の点数となった。
- ④ 事前事後学習の時間について、コロナ禍前の 2019 年度秋期 1.9 時間と比較すると、オンライン授業が始まった 2020 年度（春期・秋期）は 2.0 時間と微増している。オンライン授業となったことで課題量が増えた可能性がある。今後も対面授業とオンライン授業の併用の可能性があるが、量だけでなく質も担保された課題を課すことが求められる。

【総評】

春先から全国に蔓延した新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い全国の大学授業は、これまでの対面による授業からオンライン等による遠隔授業へと大きく様変わりした。

このような状況下であっても、本学は教育の「質保証」を担保する見地から、また、学生の満足度を高めることを主眼にしたアンケートの実施であり、春期同様に概ね良い結果であった。また、学生も Web での実施に対応できることが確認されたことは大きな評価であった。上述の回答数が過去 2 か年では最も低かった理由を考察すれば、「アカデミックカレンダー（大学暦）での開講曜日のイレギュラー（月曜日の開講日が振替休日となっていること）」が考えられる。なお、このことは更に検証を要する。

2021(令和3)年度もコロナ禍でのスタートであるが、対面授業とオンライン授業の併用(ハイブリット授業)を想定しながら、工夫を凝らして学生が満足する授業を行い、この難局を乗り越えることを切に望みます。

【次年度(2021(令和3)年度への授業取り組み】

- ① 概ね30%強の学生は、事前事後の学習状況が1時間未満である。コロナ禍であるが、日頃の学修の大切さを理解するよう求める。
- ② 教員は、学修目的や丁寧な説明等を継続して行う。
- ③ 学生の質問や提出物のフィードバックを活かすことが望まれる。
- ④ 学生が自ら授業に取り組むことができるような環境づくりが求められる。
- ⑤ 大学の学修(新しい知識、技術、能力)環境づくりをさらに進展させる。

以上